

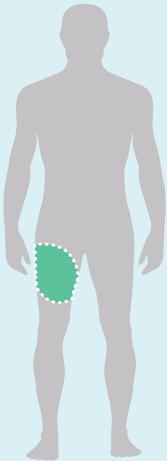
RECELL[®] SYSTEMを使用した治療により、採皮面積を縮小しつつ 全層熱傷の完治が得られた

CASE STUDY / William Hickerson, MD, FACS / University of Tennessee, Memphis, TN

患者の状態

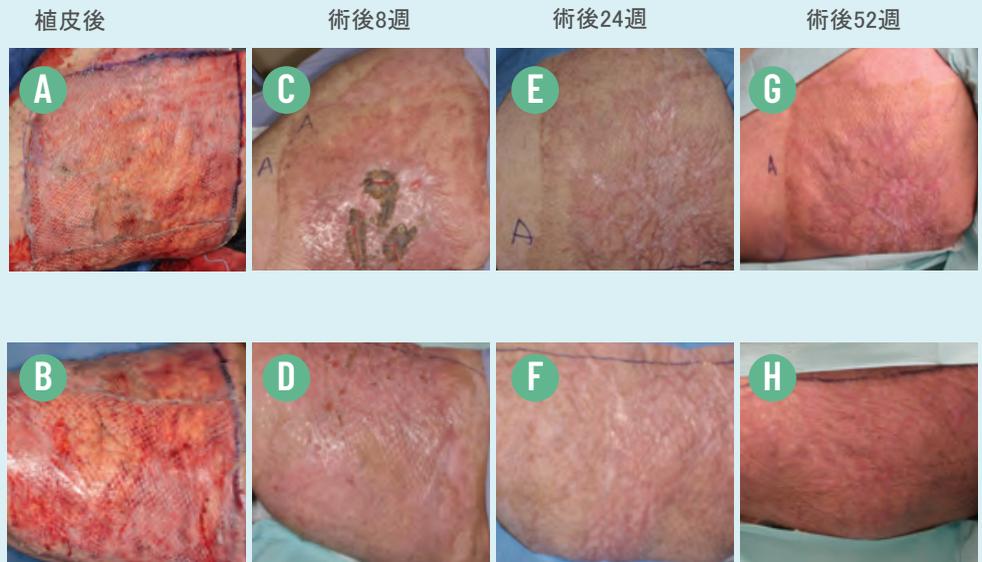
火炎による全層熱傷を受傷した39歳男性。本症例では、右大腿部への2:1分層植皮術と3:1分層植皮とSpray-On Skin[™]Cellsを併用したRECELL治療との比較に注目する。

RECELL治療部位



Control 2:1 meshed STSG

Spray-On Skin[™] Cells +
3:1 meshed STSG



治療法

この患者の治療は、前向き無作為化比較試験の一環として実施された。全ての治療部位に接線切除を実施し、無作為化を行った。コントロール部位として、2:1自家網状分層植皮を大腿部の一部に使用（図A）した。RECELLシステムでSpray-On Skin[™]Cellsを作成し、大腿部のもう一方の部位の3:1自家網状植皮の上から適用した（図B）。どちらの治療部位もTelfa[™]Clearで被覆し、その上からXeroform[™]及び保護用ドレッシング材で被覆した。

臨床的アウトカム

熱傷治療にRECELLを使用することにより、Control治療部位（図C）に比べ、より早期の治癒に繋がった（図D）。3:1自家網状植皮とSpray-On Skin[™]Cellsを組み合わせることで2:1自家網状植皮のみで治療した場合に比べて採皮面積が38%縮小された。術後52週目（図G&H）に患者と観察者による創部評価（POSAS）を両治療部位に対して行い、そのスコアは同等であった。長期の強度に関する問題は報告されていない。

結語

本症例では、従来の植皮術と比べ、より高倍率の自家網状植皮とSpray-On Skin[™]Cellsの組合せ治療でも治癒や整容性に妥協すること無く採皮面積を縮小できることが示された。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

